

バラの育て方

[植え方]

植え付けの最適期は5月中旬～6月末頃ですが、本州と違い11月以降でなければ可能です。

庭植えの場合、日当たり、風通しの良い場所を選び、植え穴は直径50cm×深さ50cm位の大きめに掘り、完熟堆肥、腐葉土など掘出した土の容量の3割程をよく混ぜ、バラ苗の根鉢を崩さないで植えます。ある程度土を踏み固め、最後に水をたっぷり与えます。

鉢植えの場合は、株の大きさに見合った鉢に、市販のバラ用の土や培養土などを使い、バラ苗の根鉢を崩さないで植えます。

[基本管理]

バラは病害虫がつきものですが、定期的な観察と早期防除で簡単に管理できます。

害虫の駆除は比較的容易です。病気に関しては、生育状態、環境、品種の耐病性にもよりますが、早めの防除が有効です。

水やりは、鉢植えの場合、乾いたらたっぷり与えます。元気のよい株と生育不良気味の株とは水の吸い上げが違いますので、個々の株の状態に応じて加減します。

庭植えの場合は、土壤環境にもよりますが基本的に定期的な水やりは必要ありません。

肥料は生育状態に応じて調整し、植え付け間もない株や生育不良気味の株は少なめに、元気がよく順調に育った株は適量にするなど、与える量に気をつけます。

[剪定]

寒冷地の場合、冬季剪定は、冬囲いや枝縛り時に邪魔になる枝を軽く切り詰める程度にします。

4月下旬頃になってから、枯れ枝、混みあった枝、細枝などを切り、木立ち性のタイプは強剪定します。ツル性タイプのバラも不要な枝を切り、誘引作業もこの時期に行ったほうが枝枯れしにくいです。

<札幌近郊を基準とした主な病害虫・施肥管理>

管理項目	肥料・農薬名など	1-3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
肥料	ラプリーローズ バイオゴールド		●	●	●	●	●	●	●			肥料の種類により成分、効き方が違うので、与える頻度や量をよく確認して施してください。特に9月に与える肥料は、カリ成分の高い速効性タイプのもを用いましょう。
害虫(アブラムシ)	オルトラン粒剤 オルトラン水和剤 スミチオン乳剤		●	●	●	●	●	●	●	●		伸びかけの新梢などに群がって植物の養分を吸う害虫で、病気を媒介します。発生する前に株周りに撒く粒剤タイプの殺虫剤を使ったり、定期的に(2~3週間に1度)株全体にたっぷりかける液剤タイプの殺虫剤で駆除します。
害虫(ハダニ)	葉水(週1回) コロマイト乳剤					●	●					乾燥した夏場の高温期に多発する、葉の裏から養分を吸う害虫です。発生初期なら水を葉裏にかけて退治できますが、大量発生した場合は殺ダニ剤で駆除します。放っておくと葉が茶褐色になって落葉します。
病気(ウドンコ病)	トリフミン水和剤 パンチョTF水和剤 サルバトーレ乳剤			●	●	●	●	●	●	●		新梢や蕾の首に白い粉っぽいカビの一種が付着し、葉が縮れるなどの症状が現われます。温度差のある時期や風通しの悪い場所で発生しやすいですが、適応薬剤を6月初め頃から散布すればかなり対処できます。
病気(黒星病)	サブロール乳剤				●	●	●	●	●	●		葉に黒い点がつき、黄色くなって落葉します。感染力が強く、放っておくと葉がすべてなくなり生育不良になります。病原菌は土の中にいるカビの一種で、雨が多い時期は特に感染しやすくなります。7~8月中は天候の状況を見ながら1~2週間間隔くらいで消毒します。

できればあまり農薬を使用したくはありません。病気になったから枯れるということはまずありません。好環境で、ある程度しっかり育った苗は、病気にもなりにくいものです。

植付け間もない苗で、寒冷地の場合特に気をつけたいのは水と肥料のやり過ぎです。バラは肥料食いというようなイメージがあるため、かなりの量、回数を与えると、根は傷み、寒さに耐えられない枝をたくさん作ってしまいます。特別扱いしないでよく観察して育てましょう。